

児童発達支援又は放課後等デイサービス事業に係る自己評価結果公表用

公表日：5年 9 月 4 日

事業所名：なみっこキッズクラブ

区分	チェック項目	現状評価（実施状況・工夫点等）	保護者の評価	保護者の評価を踏まえた改善目標・内容
環境・体制整備	1 利用定員に応じた指導訓練室等スペースの十分な確保	玩具や備品は棚に整理し、活動のスペースの確保に努めている。	「はい」との回答が100%(対象者6名)	現状維持
	2 職員の適切な配置	配置基準を満たすよう心がけている。	「どちらともいえない」との回答が1名。残り全員が「はい」と回答。(対象者6名)	人員の移動があればお伝えする。
	3 本人にわかりやすい構造、バリアフリー化、情報伝達等に配慮した環境など障害の特性に応じた設備整備	ケガをしないような家具の配置等に配慮している。	「はい」との回答が100%(対象者6名)	現状維持
	4 清潔で、心地よく過ごせ、子ども達の活動に合わせた生活空間の確保	サービス提供後には、清掃・消毒を行っている。	「はい」との回答が100%(対象者6名)	現状維持
業務改善	1 業務改善を進めるためのPDCAサイクル（目標設定と振り返り）への職員の積極的な参画	ケース記録を確認しながら、PDCAサイクルが上手く回るように職員間での報告・連絡・相談に努めている。		現状維持
	2 第三者による外部評価を活用した業務改善の実施	第三者による外部評価を行い業務の見直しなどに努めている。		現状維持
	3 職員の資質の向上を行うための研修機会の確保	所内研修は月1回行っており、外部研修も積極的に参加するように心がけている。		現状維持
	1 アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の作成	アセスメントは最長6ヶ月に1度行い、保護者のニーズも踏まえ計画を作成している。	「わからない」との回答が1名。残り全員が「はい」と回答。	今後もニーズをしっかりと踏まえながら計画を作成していく。
	2 子どもの状況に応じ、かつ個別活動と集団活動を適宜組み合わせた児童発達支援又は放課後等デイサービス計画の作成	個別活動と集団活動を組み合わせて作成を行っている、		現状維持

適切な支援の提供	3	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画における子どもの支援に必要な項目の設定及び具体的な支援内容の記載	必要な項目を選択し、支援内容は具体的に設定・記載している。	「わからない」との回答が2名。残り全員が「はい」と回答。(対象者6名)	記載内容を詳しく丁寧にご説明するようにする。
	4	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画に沿った適切な支援の実施	カンファレンスやミーティング時に職員間で適切な支援の共通理解を図っている。	「はい」との回答が100%(対象者6名)	引き続き行っていく。
	5	チーム全体での活動プログラムの立案	活動プログラムに参加する職員が作成に参加し、行っている。		引き続き行っていく。
	6	平日、休日、長期休暇に応じたきめ細やかな支援	平日は短い時間の中での有効な過ごし方、休日には退屈しないようなプログラムや設定を行い、個々の支援を丁寧に行っている。		引き続き行っていく。
	7	活動プログラムが固定化しないような工夫の実施	毎月テーマを変え、継続的な支援を行う一方、飽きないような支援の方法を工夫している。	「はい」が4名。「わからない」が1名。「どちらともいえない」が1名。	会報でどんなことを行っているかを保護者に見える化していく。
	8	支援開始前における職員間でその日の支援内容や役割分担についての確認の徹底	支援開始前に人数や配車の確認など、打合せを行っている。		間違いがないよう職員間できちり話すようにしていく。
	9	支援終了後における職員間でその日行われた支援の振り返りと気付いた点などの情報の共有化	支援終了後、職員間で1日の振り返りを共有し、当日休みの職員にはラインや後日出勤時に連絡する等で共有している。		引き続き行っていく。
	10	日々の支援に関しての正確な記録の徹底や、支援の検証・改善の継続実施	日々の支援内容は連絡ノートに記載し保管しており、支援の改善に繋げている。		引き続き行っていく。
	11	定期的なモニタリングの実施及び児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画の見直し	定期的モニタリングを行い、計画の見直しを行っている。		引き続き行っていく。
	1	子どもの状況に精通した最もふさわしい者による障害児相談支援事業部のサービス担当者会議への参画	サービス担当者会議には事前に職員間でのミーティングを行い、児童発達管理責任者が出席している。		現状維持
	2	(医療ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 地域の保険、医療、障害福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援の実施	該当者なし		医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子どもはいない。

関係機関 との連携	3	(医療ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制の整備	該当者なし		医療的ケアが必要な子どもや重症心身障害のある子どもはいない。	
	4	児童発達支援事業所からの円滑な移行支援のため、保育所や認定こども園、幼稚園、小学校、特別支援学校(小学部)等との間での支援内容等の十分な情報共有	互いに情報共有を行い、児童に対しての理解を深めるようにしている。		引き続き行っていく。	
	5	放課後等デイサービスからの円滑な移行支援のため、学校を卒業後、障害福祉サービス事業所等に対するそれまでの支援内容等についての十分な情報提供	該当者なし		放課後等デイサービスは行っていない。	
	6	児童発達支援センターや発達障害支援センター等の専門機関との連携や、専門機関での研修の受講の促進	今後積極的に連携し、研修に参加していく。		専門機関との連携や研修受講を促進していく。	
	7	児童発達支援の場合の保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、放課後等デイサービスの場合の放課後児童クラブや児童館との交流など、障害のない子どもと活動する機会の提供	コロナ感染を懸念し、実行はできていないが、系列の保育園児との交流を考えている。		コロナが落ち着いたら実施していく方向。	
	8	事業所の行事への地域住民の招待など地域に開かれた事業の運営	今後は地域への貢献活動などを検討中。		地域に開かれた事業所となるよう活動を検討していく。	
	保護者へ	1	支援の内容、利用者負担等についての丁寧な説明	契約時に重要事項説明等で保護者に詳しく説明を行い、質問等があれば丁寧にお答えしている。	「はい」との回答が100%(対象者6名)	現状維持
		2	児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画を示しながらの支援内容の丁寧な説明	支援計画の内容を更新の度に丁寧に内容を説明し、熟読頂いた上で署名・捺印を頂いている。	「はい」との回答が100%(対象者6名)	現状維持
3		保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対するペアレントトレーニング等の支援の実施	ペアレントトレーニングとしては行っていないが、適宜保護者の対応の仕方などは助言・アドバイス等を行っている。	「はい」が3名。「どちらともいえない」が2名。「いいえ」が1名。	今後必要に応じて取り組んでいきたい。	
4		子どもの発達の状況や課題について、日頃から保護者との共通理解の徹底	日頃は連絡帳などで状況の共通理解を図っている。	「はい」との回答が100%(対象者6名)	現状維持	

の 説明 責任 ・ 連携 支援	5	保護者からの子育ての悩み等に対する相談への適切な対応と必要な助言の実施	保護者からの相談は電話や来所等で助言を行っている。	「はい」が3名。「どちらともいえない」が2名。「いいえ」が1名。	定期的には行えていない為、相談の時間などを設けるなど、今後検討していきたい。
	6	父母会の活動の支援や、保護者会の開催による保護者同士の連携支援	コロナの影響でなかなか行えていないのが現状。	「はい」が1名。「わからない」が1名。「いいえ」が4名。	保護者や職員と話し合い、今後検討していきたい。
	7	子どもや保護者からの苦情に対する対応体制整備や、子どもや保護者に周知及び苦情があった場合の迅速かつ適切な対応	苦情に対しての窓口を設け、真摯な対応を心がけている。	「はい」との回答が100%(対象者6名)	現状維持
	8	障害のある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮	特性に応じた対応を行い、各々の指導員が適切な配慮をしている。	「はい」との回答が100%(対象者6名)	現状維持
	9	定期的な会報等の発行、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報についての子どもや保護者への発信	R5年6月より毎月の会報を作成し、保護者にお渡ししている。	「はい」との回答が100%(対象者6名)	現状維持
	10	個人情報の取り扱いに対する十分な対応	契約時に個人情報の同意書を頂き、個人情報については鍵付き書庫に保管し、誰でも勝手に見られないように慎重に扱っている。	「はい」との回答が100%	現状維持
非常 時等 の 対応	1	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアルの策定と、職員や保護者への周知徹底	各種マニュアルについては定期的に職員研修を実施し、知識・技能向上に努め、訓練も行い、訓練の内容は保護者にもお知らせしている。	「はい」との回答が100%(対象者6名)	現状維持
	2	非常災害の発生に備えた、定期的に避難、救出その他必要な訓練の実施	1年に2回訓練を実施。訓練後は振り返りや反省点なども職員と情報共有している。	「わからない」との回答が2名。残り全員が「はい」と回答。(対象者6名)	訓練の内容などを毎月の会報に載せて発信していく。
	3	虐待を防止するための職員研修機会の確保等の適切な対応	1年に1回は研修の機会を設けている。		研修内容を更新し、知識・技能の向上を図っていく。
	4	やむを得ず身体拘束を行う場合における組織的な決定と、子どもや保護者に事前に十分に説明・了解を得た上での児童発達支援計画又は放課後等デイサービス計画への記載	減税該当者はいないが、職員間での周知、研修を行っている。保護者には契約時に重要事項説明書にて説明を行っている。		現状維持

5	食物アレルギーのある子どもに対する医師の指示書に基づく適切な対応	現在該当者はいないが、アレルギーの有無については契約時、アセスメント時に確認し、対応についても確認を行っている。		現状維持
6	ヒヤリハット事例集の作成及び事業所内での共有の徹底	ヒヤリハット報告書を作成し、ミーティング等で今後の対策等を共有している。		現状維持